

(7) 世代を繋げるインターフェイス：オキラマン

はじめに

①白山通り拡幅と、②それに伴う商店街の入口形状の大幅な変更。

これらを発端にした巣鴨地蔵通り商店街への影響を考えてみますと、まず①の白山通りの拡幅については、敷地形状が大きく変化する施設として高岩寺がありますが、寺にとって白山通りは裏であり、撤去されるトイレについても、商店会のヒアリングにおいて問題視されていない様子から必須条件ではないと判断しました。

また、白山通り沿いの新規商業施設に地蔵通りから顧客を奪われる心配がありますが、白山通りは車中心で、集客範囲及び移動スピードともに社会的スケールの大きい商売環境が特徴だと思います。従って想定店舗としてはファミリーレストランなど駐車場付の大型店舗およびチェーン店などが考えられ、歩行者中心及びローカル店舗で展開している巣鴨商店街とは様相も顧客ターゲットも異なり、そこに干渉関係は起こらないし、逆に各々の特徴がハッキリと見えてくることによる戦略的メリットの方が大きいと考えました。

また②の入口の形状変更についても、現在はゲートが歩道橋の影に隠れて配置されてしまっていますが、今後は現状の歩道橋も撤去され、入口付近のスペースも広くなり、ゆったりと思い切った入口整備が出来るようになり、こちらについても特別な課題や問題点は見受けられず、逆に好条件による整備計画と判断いたしました。

このように①および②のような物理的形狀変更から懸念される問題はそれほど大きくはないのではないかと思います。

しかし、調査の一方で、現状から何う将来の商店街像はあまり楽観視できないという懸念要素も感じました。それは商売及び信仰の為の物理的空間に存在しているのではなく、その空間を支えている「お年寄りの街」というプログラム（ソフト）側にあると考えました。我々はその要素に焦点を絞って掘り下げ、そして提案させていただこうと思います。

1. 将来を見据えた新しい巣鴨商店街のプログラム

いつの時代にも「お年寄り」はいます。しかも高齢化社会となれば今後「お年寄り」は増加傾向ですので商店街にとっては好条件だと思います。しかし本当でしょうか？あえて疑ってみますと、今後10年ぐらいで団塊世代が70～80歳代になってきます。少なくとも現状の「お年寄り」とは全く価値観が異なると言われていています。つまり次への準備が必要になってくると思います。当然商店会も準備を始められているかと思いますが、我々はこの問題こそワークショップとして皆で知恵を出し合う意義があると思います。

地蔵通り商店街は主に「信仰」と「商業」の2本柱で成り立っていて、信仰を初期動機として参詣し、二次作用として商店街で買い物をするという仕組みを作ってきました。しかしこのスタイルはスタートの信仰が崩れてしまうとその後が続かないシステムになっています。果たして次の世代にその信仰は有効なのでしょうか。かつては大家族で世界観も限られ、否応なしに考え方や価値観は上から下へ引き継がれていたので、ある意味非常に安定していました。しかし団塊世代は実家を飛び出して核家族化を進めた世代です。そのような状況の中、信仰は非科学的でもろい価値観ですから、まっとうに上から下の世代へ踏襲されることは少ないと思われます。つまり、その仕組みが壊れてしまった現在において、その仕組みと同等に機能する新しいプログラムが必要であり、それを機能させることによって安定した価値観が保証されると考えられます。

我々は、お年寄りから下の世代の子供へ、巣鴨における価値観を踏襲していく仕組みを提案します。かつては「家庭」という場所で育んでいった価値観を「巣鴨」という場所において育んでいき、「巣鴨」という場所が「家」のような存在になることを目的とします。それにより顧客が世代交代しても必ず「家」である「巣鴨」に戻ってくることで、顧客の巣鴨への足が途絶えることはなくなります。

その踏襲していく仕組み、つまりナビゲートするプログラム＝「ナビゲートプログラム」が「信仰」「商業」に続く第三の柱として機能していくことで商店街の存続が保証されるのです。

2. プログラムが生み出す新しい景の可能性

6つほど「ナビゲートプログラム」を提案させていただきます。傾向としては実際に商店会が行っている既存業務や、ヒアリングで伺った要望など一番身近な切り口にしてあります。つまりどんな業務においてもこのナビゲートプログラムが有効になるようにアレンジすることができます。

① 地藏通り舗装計画

白山通りを車中心の道路として位置付け、地藏通りは歩行者専用道路にします（一部管理車両のみ通行可能）。従いまして舗装をもっとやわらかくて親しみのある材料で改修します。

ここではお寺に奉納ということで一枚大判タイルを購入し、そのタイルに参詣客であるお年寄りとその孫（小学生低学年程度まで）の手形やサインを残します。そういう特別なタイルを舗装材として敷設し、商店街入口から庚申塚まで敷きつめます。お年寄りとお孫さんの思い出の品の集積が巣鴨の商店街の道となって残っていきます。彼らが大人になってもその思い出が残っている限り、彼らにとっては巣鴨は特別な場所として心に残っていくはずです。

② 柱のキズは、

誰でも経験したことがあると思います。子供の頃、誕生日とかに家の柱に身長を記す意味でキズをつけて成長の記録を残していったことを。それを巣鴨でやってみます。寺の境内にキズをつける大きな柱を設置し、お年寄りが子供と一緒に来た時、またはなにか特別な日にお寺に来て、キズをつけていく。自分の成長を寺に見届けてもらうことによって、信仰心が生まれたり、またその思い出とともに巣鴨が家のように感じる事実を残していきます。

③ 木陰作戦

今年の夏は暑かった。商店街も寺も日陰が少なく、お客さんの滞在時間が短くなったとお聞きしました。歩行者専用道路になれば、境内含めて一体的な歩行者空間ができますので、そこに将来大きな木陰をつくる樹木を植樹し、お年寄りや子供達に育ててもらいます。10～20年後に立派な緑陰をつくる大樹になると、それは樹木を育てていること＝木陰を育てていること、つまり日陰を作って街づくりに参加していたことになります。自分が作った日陰で誰かが休んでいるということになり、もてなされる側からもてなす側になっています。

④ 参加型休憩施設

休憩施設、特にベンチが足りないと言われています。今までもベンチの提案も多いようですが、本プログラムではそのベンチの作り方を提案いたします。子供とお年寄りが共同作業でベンチを作ります。お年寄りの持っている知恵を有効利用し、元気で力のある子供達が製作作業をします。一緒に作ったベンチと一緒に座る。自分たちの特

別な休憩施設が巣鴨に出来上がります。

⑤ しまこうはん

店先に段差解消（バリアフリー）の為に設置されているシマ鋼板のスロープですが、毎月 25 日に商店会の方々に塗装しているとお聞きしました。是非、その作業をお年寄りや子供達に参加して頂き、好きな色に塗ってもらってはいかがでしょうか。夕方以降、閉店後のシャッターアートと共に楽しみの一つになります。一ヶ月単位で塗り替えるので、気楽に楽しく参加できます。

⑥ ホンコンフラワーとバナー

お寺の奉納という形（または各プログラムで使用する施設の材料費などに還元するという形）で名札を購入します。そこに自分達（お年寄りや子供）の名前を書き、造花をつけて、商店街のホンコンフラワーとして利用します。もともと賑わいを無理やり演出する為にあるので批判が多いホンコンフラワーですが、これで意味のある演出道具に格上げされ、また空を覆うほどの数量が確保できたときには建物の高さや外壁色などは視界から見えなくなり、街並みにまとまり感を与える効果も期待できます。

このようにお年寄りと子供が商店会と一緒にあって巣鴨の街づくりに参加していくことで、街も育ちながら一緒にお年寄りと子供達も育つ、という共感作用が働く仕組みになっています。共同作業により仲間意識が高まり、結束が強くなる。家族のように。

上記 6 案はパブリック性の高い視点にしばらくしましたが、もちろん各商店で個人的に考えられている具体的アイデアについても、同様にこのプログラムが有効になるようにアレンジすることは出来ます。パブリックにおいてもプライベートにおいても展開していくことにより多様性が増し、幅と厚みを持った街づくりが行われていくことが可能になります。

3. 暫定利用地の活用

白山通り拡幅による暫定用地は、現在利用されることもなく、野放し状態になっていますが、実際その用地が歩道として利用され始めるまでは随分先のこととなります。そこで、景観改善や治安対策を含めた、暫定用地の今後の活用方法を提案します。

まず、現在フェンスで囲われている道路拡幅用地を一部開放し、緑化や子供からお年寄りまでが利用できる公園施設を導入します。拡幅用地が歩道になるという、将来の計画を見越し、緑陰をベースとした空間としてしつらえます。(ケヤキなど、樹形の美しい樹木を植樹します)



10年後には樹木が生長し、緑豊かな空間となります。



さらに、道路を拡幅し、8m道路になっても樹木は残します。ただし、冬場も緑が枯れないように、道路側の既存プラタナスは常緑樹に植え替えます。(クスノキ、シマトネリコなど)



緑地のイメージにより、地価が高騰して、高級テナント、マンションが入ることが予想され、また前述したように車中心の通りであることから、ファミリーレストランなどの大型施設が入ることが想定されます。



古い街巢鴨商店街と、都市的で高級感の漂う白山通り。両者の差別化が進むと共に、地蔵通りへの導入部分として路地がタイムマシンと機能し始めます。

また、ソフトな面では、暫定的に有効活用するということが目的であるため、工夫次第で簡単に組み立てられ、利用できる材料(テント・パラソル、足場材、布、ベニア、ファイヤーメッシュなど)を使用した仮説的なインスタレーションや、イベントを行う場として利用します。具体的には、ナビゲートプログラム仮設展示場や、お祭り時の仮設休憩所、ストリートパフォーマンスのステージなどが考えられます。

4. 白山通り拡幅に伴う商店街入口と歩道の整備

現状の歩道橋によって、商店街入口ゲートの存在価値があやふやなものとなっています。車での来訪者は歩道橋が巣鴨の目印になっていることがわかりましたし、電車からの来訪者も特に駅側の歩道を歩いてきた場合においては、歩道橋が商店街の入口として認識されていることと思われます。

今後、現状の場所から歩道橋が撤去され、入口付近の空間も広くなり、ごった返していた空間が物理的にも景観的にもきれいさっぱりするわけですから、今までの巣鴨の顔の印象が薄く、乏しくなることでしょう。

よって、来訪者の動線確保、商店街の存在をアピールするためにも、白山通りおよび入口付近を含む大胆な整備計画を行うべきであると判断しました。

そこで我々は、「三角地帯の拡幅は、道路のためではなく入口のためである」と意図し、まず、ゲートと歩道橋の機能を兼ね備えた2階建ての山門を計画します。

巣鴨駅側より歩道を歩いてくると、駅に顔を向けた山門が構えており、エスカレーターの存在により吸い込まれるかのように誘導されます。山門ですから屋根がついているわけで、エスカレーターで2階に上ると回廊にはアートギャラリー、巣鴨歴史展示館が存在します。

エレベーター又は階段で下に降りるとそこは巣鴨商店街の入口です。そこにはインフォメーション、公衆トイレがあります。拡幅された三角地帯は小舗石の門前広場とし、人々が集い、くつろぎます。また、観光バスの通り抜けが可能な設計となっており、観光客の乗降スペースとなります。

山門および入口付近を含む計画により、来訪者を出迎える場、歴史を感じる場、人々が集う場として巣鴨の新しい顔をつくります。また山門の計画は、歴史ある場所に歴史を残すという意図もあり、巣鴨の大切なシンボルモニュメントとしてしつらえます。

前に述べたように、歩道の整備に関しては、暫定利用地（仮設整備）がそのまま本設（8m歩道）になる仕組みとなっています。

おわりに

白山通り拡幅により生じる諸問題に関しては、商店会のヒアリングや、ここ数ヶ月にわたり巣鴨を訪れて状況を見てきた結果、道路などの形状変化による物理的な影響はありますが、白山通りと地蔵通りの特徴が明確となり、それぞれの独自性が強調され差別化が進むため、商店街に対するデメリットはほとんどないと判断しました。

暫定利用地や、将来の商店街入口や拡幅部分の歩道の使われ方については、主にハード面を計画させていただきましたが、むしろ今まで「信仰」と「商業」という柱を構え「お年寄りの街—巣鴨」として位置付けられてきた地蔵通り商店街が、次世代へ対応していくためのソフト的な手段を考案することが最重要であると考えました。

今回提案させていただいた「ナビゲートプログラム」は、誰もが気軽に参加でき、それら共同作業の結果や証しが商店街に刻まれることで、商店街にも参加者にも記念を残し、世代を繋げていく仕組みとなっています。初めはイベント的なノリで始まるこのプログラムも、月日経つにつれ来訪者や商店街に定着していき、あちらこちらで、証しを見ることができます。

この「ナビゲートプログラム」は、巣鴨を一度訪れた人が、又来よう、何年か前に残した証しを見にこよう、と思わせるための仕組みであり、今まで来訪の動機となっていた「信仰」と「商業」の次に続く次世代の新たな大柱となるでしょう。このプログラムの導入によって巣鴨地蔵通り商店街が、「お年寄りの街—巣鴨」から、「家のような存在—巣鴨」となることを願っております。